

ネクシィーズグループ

4346 東証 1 部

<http://www.nexyzgroup.jp/investor/>

2017 年 1 月 23 日 (月)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
角田 秀夫

[企業情報はこちら >>>](#)

■ エネルギー環境関連事業が快進撃、子会社ブランジスタ<6176> (電子雑誌、スマホゲーム) も成長持続

ネクシィーズグループ<4346>は、企画力と営業力を武器に、携帯電話や衛星放送などのデジタル商材の販売で業容を拡大し、2002年には大証ナスダック・ジャパン市場に上場(現ジャスダック)、2004年には東証1部上場を果たす。現在の主力事業は、2013年9月期に開始したLED照明を始めとするエネルギー環境関連事業と子会社のブランジスタ<6176>が行う電子メディア事業である。2016年6月に提供を開始したスマホクレーンゲーム「神の手」は、株主でもある秋元康(あきもとやすし)氏が総合プロデューサーとして、様々なコラボ企画が注目を集める。

主力はLED照明をメインとする省エネ商材のレンタルサービスである。「日本の電気代を下げる」をスローガンにスタートしたこの事業は、4年間で同社のメイン事業に成長し、売上高は約80億円(2016年9月期)に達する。初期費用をゼロとする独自のレンタル方式が飲食店・宿泊施設などのニーズに合致し、業界No.1の地位を確立した。2016年9月期には対象商材が増え、「ネクシィーズ・ゼロシリーズ」として、節水機器・業務用冷蔵庫・業務用空調なども好調に推移しており、LED照明以外の売上高は約15%を占めるまでになっている。

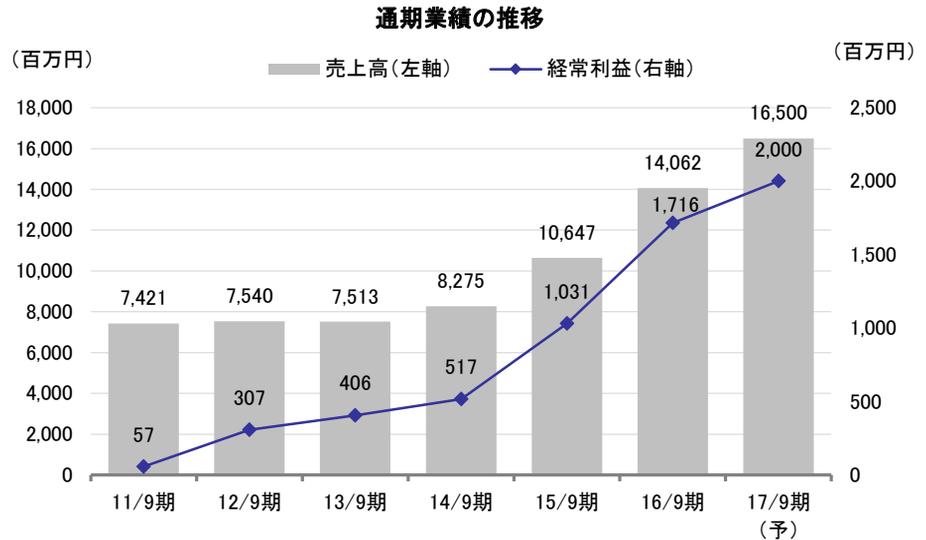
2016年9月期通期(連結)の売上高は前期比32.1%増の14,062百万円、営業利益は同69.4%増の1,716百万と大幅な増収増益となり5期連続営業増益を達成した。躍進を続けるエネルギー環境関連事業が、契約件数の約40%にもおよぶ紹介案件の増加や商材の多様化により順調に拡大し、増収増益に貢献した。電子メディア事業(主に電子雑誌)も増収増益、文化教育事業(きもの着付け教室)も利益を確保し、すべての事業が順調だった。

2017年9月通期の業績予想は、売上高で前期比17.3%増の16,500百万円、営業利益で同16.5%増の2,000百万円と4年連続の増収と6年連続の増益を予想する。主力2事業がどちらも伸び盛りであることからすると、やや保守的な計画の印象があり、昨年度同様に期中の上方修正も想定される。2017年9月期の特殊要因としては、(株)ブランジスタゲームで500百万円以上の広告宣伝投資を計画しているため、利益成長を低めに予想している。それでもなお、LED照明が好調であるため、500百万円以上の先行投資を行っても、創業来の過去最高益の予想となっている。

2016年6月にリリースされたスマホクレーンゲーム「神の手」は、秋元康氏がプロデュースするプレミアム景品や様々なコラボ景品により、対象ユーザーである“オタク”層から支持を獲得している。プレミアム景品の例として、AKB48やEXILEなどのオリジナル景品、また世界最大のアイドルイベント「東京アイドルフェスティバル」の参加アイドルとのコラボ景品など、即日完売企画が続出している。また、11月からフジテレビの深夜バラエティ番組との連携企画も開始され、認知度が向上している。2017年9月期には、「神の手」の広告宣伝に対して5億円ほどを投入する計画となっており、さらに勢いが加速しそうだ。

Check Point

- ・ 省エネ商材レンタルサービスが快進撃
- ・ 16/9 期は 5 期連続営業増益、大幅増収を達成
- ・ 17/9 期はスマホクレーンゲームゲーム「神の手」のプロモーション強化へ
- ・ 自社株買い、増配で株主還元を強化
- ・ 17/9 期 売上高 16,500 百万円、営業利益 2,000 百万円 過去最高益予想



会社概要

“情熱ベンチャー企業家” 近藤社長が率いる企業グループ

(1) 沿革

同社は、代表取締役社長兼グループ代表の近藤太香巳氏が 1987 年に大阪で開始したブッシュフォンの訪問販売を起源とする。1990 年に電話加入権をクレジットで分割購入できる「テルミーシステム」が大ヒットし、その後に携帯電話版「テルミーシステム」でも大成功する。その後も得意の企画力と営業力を武器に、携帯電話や衛星放送などのデジタル商材の販売で業容を拡大し、2000 年にはソフトバンクインベストメント(株)(現 SBI インベストメント(株))が資本参加、2002 年には大証ナスダック・ジャパン市場に上場(現ジャスダック)、2004 年には東証及び大証 1 部上場を果たす。その後も、ISP サービス・金融商品・動画コンテンツ・着物教室及び販売などに提携・M&A を通じて積極的に参入し、事業領域を拡大している。現在の主力 2 事業は、ブランジスタが行う電子メディア事業と 2012 年に開始した LED 照明を始めとするエネルギー環境関連事業である。ブランジスタは 2016 年 6 月に、スマートフォン向けのクレーンゲーム「神の手」を販売開始し、新たなチャレンジをし続ける。

2017 年 1 月 23 日 (月)

近藤太香巳社長は、19 歳で起業した生来のベンチャー企業家である。2000 年、IT バブルの崩壊による東証マザーズ上場中止（とりやめ）など、様々な逆境を乗り越えて 2004 年に当時最年少創業社長として東証 1 部に上場を果たす。2006 年には「Japan Venture Award 2006」の起業家部門にて、最高位である経済産業大臣賞を受賞。講演活動（早稲田大学、東京大学など）や著作出版など、持ち前の情熱で将来の起業家を育てる活動を積極的に行っており、日本一の経営者交流会「パッションリーダーズ」（全国会員数 3,800 名）の代表理事も務めている。

会社沿革

年	主な沿革
1987年	大阪市天王寺区にてホームテレホン販売業を創業
1990年	株式会社日本テレックスを設立（大阪府吹田市）し、月々 2,000 円で電話が引ける画期的な電話加入システム「テルミーシステム」を発表
1991年	携帯電話にもテルミーシステムを活用し携帯電話販売を開始
1992年	株式会社オリエントコーポレーションと提携し、自社専用クレジット「テルミークレジット」をスタート
1994年	東京都渋谷区に本社を移転
1999年	広島支店、福岡支店を開設、全国ネットワークの拡大を推進
2000年	BS 放送 WOWOW の取扱い開始 ソフトバンク・インベストメント株式会社が資本参加 社名を「株式会社ネクシィーズ」に変更
2002年	大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場に上場 ソフトバンク BB 株式会社と一次代理店契約締結 衛星放送の無料レンタル・サービス提供のため株式会社ティ・ティ・ネクシィーズを設立
2004年	業務受託型ブースによる格安固定電話「おとくライン」の販売開始 東京証券取引所市場第一部に上場、大阪証券取引所市場第一部に上場
2005年	金融商品仲介業を行うため、イー・トレード証券株式会社（現株式会社 SBI 証券）と JV にて株式会社ネクシィーズ・トレードを設立 動画コンテンツの配信サービスを行うため株式会社ネクシィーズ・エンターテインメントを設立 株式会社 Nexyz.BB が ISP サービス開始
2006年	連結子会社を傘下とする持株会社体制への移行 株式会社 Nexyz.BB とソフトバンクモバイル株式会社が業務提携し、携帯端末の販売開始
2007年	芸能プロダクション株式会社レプロエンタテインメントと JV 方式により株式会社ブランジスタを設立
2008年	株式会社ブランジスタと楽天トラベル株式会社が業務提携
2009年	ハクビ総合学院を子会社化
2010年	EC モール向け ASP サービス「EC 店長」のサービス開始 トラベルウェブマガジン「旅色」サービス開始
2013年	株式会社ブランジスタに楽天株式会社が資本参加
2015年	グループ子会社である株式会社ブランジスタが東京証券取引所マザーズへ株式上場
2016年	株式会社ネクシィーズから「株式会社ネクシィーズグループ」へ社名変更 株式会社ブランジスタ 神体験 3D クレーンゲーム「神の手」ダウンロード開始

出所：HP よりフィスコ作成

エネルギー環境関連事業（省エネ商材レンタル）と電子メディア事業（電子雑誌）が 2 本柱

(2) 事業概要

同社の主力事業はエネルギー環境関連事業であり、成長著しい LED を始めとする省エネ商材のレンタルサービス「ネクシィーズ・ゼロシリーズ」、DNA 解析に基づく健康コンサルティング業務、自社リースなどを含む。全社売上の 63.7%（2016 年 9 月期通期）、全社営業利益の 74.9%（同）と全社業績をけん引する。（株）ネクシィーズ、（株）ネクシィーズ・ゼロ、（株）DiNa の業績が該当する。

電子メディア事業は、電子雑誌の制作受託及び広告販売業務、EC 企業をサポート業務（サイト構築、運営、物流、翻訳など）、ゲーム事業などを展開する。全社売上の 21.5%（2016 年 9 月期通期）、全社営業利益の 21.3%（同）を構成する。ブランジスタ、2015 年 10 月に設立されたブランジスタゲーム、ネクシィーズ・トレードの業績が該当する。

文化教育事業は、きもの着付け教室の運営、呉服・和装小物等の販売を展開する。全社売上げの14.8%（2016年9月期通期）、全社営業利益の3.8%（同）を構成する。（株）ハクビの業績が該当する。

2016年9月期通期 セグメント別の事業内容と業績

	事業内容	グループ会社	売上高		セグメント利益	
			16/9期 (百万円)	構成比 (%)	16/9期 (百万円)	構成比 (%)
エネルギー 環境関連事業	LED照明等のレンタルサービスの提供、利用者獲得業務及び販売、DNA解析に基づく健康コンサルティング業務など	(株)ネクシィーズ (株)ネクシィーズ・ゼロ (株)DiNA	8,957	63.7%	1,998	74.9%
電子メディア 事業	電子雑誌の制作受託・広告販売、EC企業サポート（販促、物流）、翻訳事業、ゲーム事業、金融商品仲介業など	(株)プランジスタ (株)プランジスタゲーム (株)ネクシィーズ・トレード	3,067	21.5%	566	21.3%
文化教育事業	きもの着付け教室の運営	(株)ハクビ	2,085	14.8%	102	3.8%
合計			14,062	100.0%	2,667	100.0%

出所：決算短信、フィスコ分析

※全社利益調整前

ネクシィーズグループ

4346 東証1部

<http://www.nexyzgroup.jp/investor/>

2017年1月23日（月）

“初期投資オール0円”の画期的なレンタル方式で快進撃

(3) エネルギー環境関連事業：省エネ商材レンタルサービス

LED照明などの省エネ商材レンタルサービスは、「日本の電気代を下げる」をスローガンに2013年9月期にスタートし、4年間で同社のメイン事業に成長した。LED照明未導入の国内企業（約300万社）を対象とし、導入が進まない理由となっていた高額な初期費用をゼロとする独自のレンタル方式で業界No.1の地位を確立した。創業以来の様々な事業を通じて飲食店・宿泊施設とのつながりが強く、導入全体の約6割を飲食店が占める。営業人員9名でスタートしたが、現在では全国11拠点、まもなく営業人員300名に達し、強みである営業力が全国規模で発揮されている。2016年9月期に本格的に開始された、LED照明以外の節水機器・業務用冷蔵庫・業務用空調・食器洗浄機などに対するレンタルサービス「ネクシィーズ・ゼロシリーズ」も好調に推移しており、LED以外で売上高の約15%を占めるまでになっている。現在はLEDレンタルサービスの既存顧客にのみ他の商材を紹介している段階だが、今後LED以外での単独営業が始まれば、さらに顧客は増加するだろう。導入件数（LED照明のみ）はこれまで右肩上がりで増えている。2015年9月期末の導入件数15,536件から2016年9月期末には23,118件と7,582件増加した。

LED照明導入実績



同社のレンタルサービスは、導入企業の初期投資の負担や不安要素を取り除いた画期的なものである。店舗経営者（顧客）にとっての最大のメリットは、初期の電球代、工事代、メンテナンス（5年間保証）などが0円である点だ。与信枠も不要であり、借入枠にも影響しないという点でリースをしのぐ。5年目までは電気料の下がった分からレンタル料を支払い、6年目からは無償で導入企業のものになりレンタル料がかからなくなるために大幅なコストダウンが実現できる。獲得顧客の約40%は既存導入店舗からの紹介ということから、顧客の満足度の高さがうかがえる。経済的な理由だけでなく、照明コンサルタント資格者の営業スタッフが3,000種類の電球からコーディネートするため、出来栄えがきれいであることも好評価の要因だ。「名大 富士そば」を運営するダイタンホールディングス（株）、携帯ショップのソフトバンク（株）や自動車ディーラーの東京スバル、飲食店では、牛角、ダイヤモンドダイニングなど、大手企業の導入も多い。また先日、日露首脳会談が開催された山口県の老舗旅館「大谷山荘」にも導入されており、サービス面でも高く評価されていることが伺える。

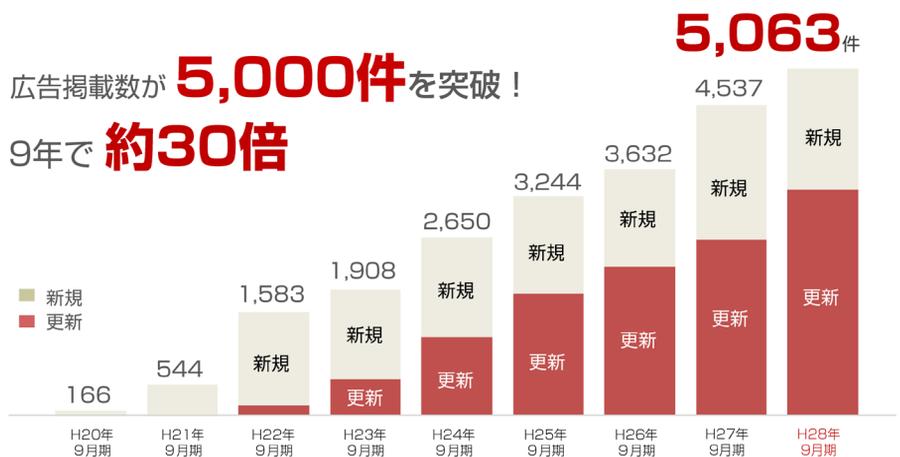
人気俳優が表紙を飾る電子雑誌（19誌）を発刊

(4) 電子メディア事業（ブランジスタ）

電子メディア事業は、子会社のブランジスタが2007年にスタートさせた電子雑誌事業がメインとなる。電子雑誌は「めくって押すだけ」で情報閲覧はもちろん、動画視聴や検索、予約・購入までができる雑誌とインターネットの長所を融合したクロスメディアである。現在、旅行誌「旅色」や男性ファッション誌「GOODA」など19誌が刊行され、月間200万人の読者に無料で視聴されており、同社は自社で企画・制作・営業機能を持つ国内No.1の電子雑誌出版社である。長年の芸能プロダクションとのネットワークにより、雑誌の表紙に有名人気俳優を起用できるのも同社の優位性だ。

ビジネスモデルは、広告掲載料を飲食店やホテルなどからもらうパターンと制作したコンテンツを企業に納品して制作費をもらうパターンに分かれ、その両方の収入を得るパターンもある。電子雑誌は紙の雑誌と異なり、ページ数の制限がないため、広告掲載においても上限がない。広告掲載数は年々増加しており、5,063件（2016年9月期、前期比526件増）に達した。収入モデルは、広告掲載料の年間契約（年30～96万円）が主流であり、継続率が約7割と高く、ストック型の事業特性がある。

電子雑誌掲載件数



電子雑誌広告
年間販売価格

30万円～96万円/年（月額2.5万円～8万円）（税別）

業績動向

2016 年 9 月期は 5 期連続営業増益、大幅増収を達成

(1) 2016 年 9 月期通期の業績

売上高は前期比 32.1% 増の 14,062 百万円、営業利益は同 69.4% 増の 1,716 百万円、経常利益は同 66.5% 増の 1,717 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同 44.4% 増の 1,215 百万円になり、大幅な増収及び 5 期連続の営業増益を達成した。躍進を続ける省エネ商材レンタルサービスが紹介案件の増加や商材の多様化により順調に拡大し増収増益に貢献した。各利益の伸びがより大きかったのは、省エネ商材レンタルサービスの営業人員を増やすなかで紹介を中心により効率的な営業活動が行われ、販管費率が 3.6P 低下したことが大きな要因である。

2016 年 9 月期通期業績

	2015 年 9 月期		2016 年 9 月期		前期比 (%)
	実績 (百万円)	対売上比 (%)	実績 (百万円)	対売上比 (%)	
売上高	10,647	100.0%	14,062	100.0%	32.1%
売上原価	6,266	58.5%	8,412	59.8%	34.2%
売上総利益	4,381	41.1%	5,650	40.1%	28.9%
販管費	3,368	31.6%	3,934	27.9%	16.8%
営業利益	1,013	9.5%	1,716	12.2%	69.4%
経常利益	1,031	9.6%	1,717	12.2%	66.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	841	7.9%	1,215	8.6%	44.4%

出所：決算短信よりフィスコ作成

2017 年 9 月期はゲーム「神の手」の広告宣伝に先行投資するも、過去最高益の予想

(2) 2017 年 9 月期の業績予想

2017 年 9 月通期の業績予想は、売上高で前期比 17.3% 増の 16,500 百万円、営業利益で同 16.5% 増の 2,000 百万円、経常利益で同 16.4% 増の 2,000 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 2.8% 増の 1,250 百万円と 4 年連続の増収と 6 年連続の増益を予想する。この業績は 28 期を迎える同社にとって、過去最高益となる。主力のエネルギー環境関連事業と電子メディア事業がどちらも伸び盛りであることからすると、やや保守的な計画の印象があるため、昨年度同様に期中の上方修正も想定される。2017 年 9 月期の特殊要因としては、ブランジスタゲームでこの冬から 500 百万円ほどの広告宣伝投資を計画しているため、利益成長を低めに予想する。

2017 年 9 月期通期業績予想

	2016 年 9 月期		2017 年 9 月期		前期比 (%)
	実績 (百万円)	対売上比 (%)	予想 (百万円)	対売上比 (%)	
売上高	14,062	100.0%	16,500	100.0%	17.3%
営業利益	1,716	12.2%	2,000	12.1%	16.5%
経常利益	1,717	12.2%	2,000	12.1%	16.4%
当期純利益	1,215	8.6%	1,250	7.6%	2.8%

出所：決算短信よりフィスコ作成

財務の安全性に懸念なし

(3) 財務状況

2016 年 9 月期末の財務状況は健全である。総資産残高は前期末比 1,165 百万円増の 12,071 百万円となった。主な増加は、受取手形及び売掛金の 1,175 百万円増であり、省エネ商材レンタルサービスが好調に推移したことによる。負債は前期末比 2,069 百万円増加の 4,718 百万円となった。主な増加は、固定負債の 1,368 百万円増であり、長期借入金が 1,335 百万円増加したことが主要因だ。

経営指標では流動比率 272.4%、自己資本比率 40.5%となっており、短期および中長期の安全性は高い。

連結貸借対照表及び経営指標

(単位：百万円)

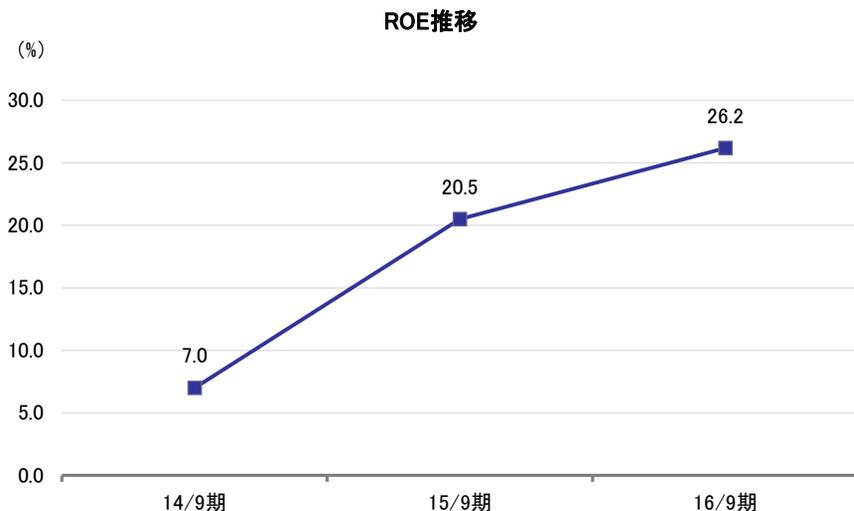
	2015 年 9 月期末	2016 年 9 月期末	増減額
流動資産	7,991	8,980	989
(現金及び預金)	3,720	3,631	-89
(受取手形及び売掛金)	3,327	4,502	1,175
固定資産	2,915	3,091	176
総資産	10,906	12,071	1,165
流動負債	2,595	3,297	701
固定負債	53	1,421	1,368
負債合計	2,649	4,718	2,069
純資産合計	8,257	7,353	-904
負債純資産合計	10,906	12,071	1,165
<安全性>			
流動比率 (流動資産÷流動負債)	307.9%	272.4%	-
自己資本比率 (自己資本÷総資産)	40.1%	40.5%	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

ROE

ROE は 26.2%、高効率経営を実現

LED 照明を始めとする省エネ商材レンタルサービスを開始してからの同社は、ROE を飛躍的に向上させてきた。2014 年 9 月期に 7.0% であった ROE は、2016 年 9 月期に 26.2% まで上がり、経営効率を高めたことがわかる。大黒柱の省エネ商材レンタルサービスは引き続き成長期にあるため、今後、ゲーム分野への投資を増やしながらも利益水準を維持するものと想定される。



株主還元策

2016 年 9 月期は年 15 円配当 (5 円増配)、配当性向 15.4%、総還元性向 50.3% まで上昇

同社は、成長のための投資と株主への適切な利益還元をバランス良く行う方針である。2016 年 9 月期の 1 株当たり配当金は年 15 円 (前年比 5 円増配)、配当性向 15.4% となった。株主還元の一環として自社株買いも積極的に行っており、2016 年 5 月までに 228,600 株、2016 年 10 月までに 200,000 株を取得し、総還元性向では 50.3% に達した。2017 年 9 月期は、第 2 四半期末 10 円、期末で 10 円、年 20 円配当 (前年比 5 円増配) を予定する。2017 年 9 月期も前期同様に自社株買いと増配により株主還元を強化する。

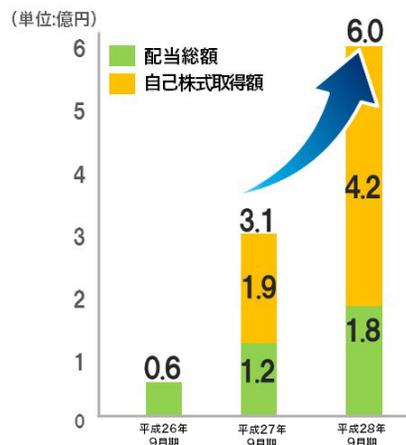
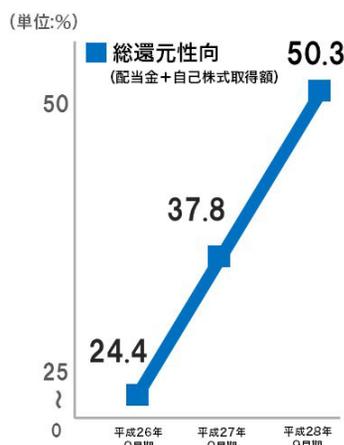
自社株買いの実施結果及び総還元性向 (連結) の推移について



◆取得の結果

(1) 取得株式の総数 428,600 株 (2) 株式の取得価額の総額 426 百万円

※平成28年10月1～7日 取得株数51,800株、取得価額79百万円を含む



Confidential copyright (c)2016 Nexyz. corp. All Rights Reserved

■ 成長戦略

スマホクレーンゲーム「神の手」に経営資源を投入

○スマートフォン向けオンラインゲーム

2016 年 6 月、スマホクレーンゲーム「神の手」をリリースした。このゲームはスマートフォンで行うオンラインゲームで、獲得した景品は自宅に届く。アプリはシンプルなものであり、ゲームセンターで 86 年間も続くクレーンゲームの臨場感を 3D で表現した。景品の魅力がポイントとなるが、秋元康氏が総合プロデュースするプレミアム景品やアニメや映画とのコラボ企画により、対象ユーザーである“オタク”層に訴求する。収入モデルは、有料モデルと広告モデルに分かれ、有料モデルの場合には、ユーザーは 1 プレイ 100 円からゲームにチャレンジする。バーチャルで遊び、リアルで景品を獲得して楽しむという新しいタイプの体験を提供する。

ゲーム収入モデル

2つの収益モデル



出所：決算説明会資料より掲載

第 1 弾の景品は、AKB48 の選抜総選挙のオリジナル景品で、その後も AKB などのアイドルのイベントやドラマ・舞台などとのコラボ企画が続き、第 17 弾 (12 月 16 日現在) までリリースされた。また世界最大のアイドルイベント「東京アイドルフェスティバル」の参加アイドルとのコラボ景品、EXILE と三代目 JSB メンバー出演映画とのコラボ企画など、即日完売する企画が続出している。

また、11 月からフジテレビ木曜深夜 25 時 25 分から放送されるバラエティ番組『#ハイ_ポール』内で「神の間」というコーナーが開始された。小嶋陽菜 (AKB48)、村本大輔 (ウーマンラッシュアワー) が MC を務めるこのコーナーは、「神の手」で欲しい景品を公式サイト・SNS から「民の声」として募集し、集まった「民の声」の中から、小嶋陽菜 (メガミ) と村本大輔 (ゲボク) が採用・不採用を決定するという連携企画だ。

これまでの半年間はアプリの修正や景品の忠実などを優先するために多額の広告宣伝は行ってこなかった。2017 年 3 月以降には、「神の手」の広告宣伝に対して 5 億円ほどを投資する計画となっており、さらに勢いが加速しそうだ。

2017 年 1 月 23 日 (月)

神景品企画 1

『EXILE』『三代目 JSB』メンバー出演映画



プレミアムオリジナルクッション「神の手」バージョンで登場!
 出所：決算説明会資料より掲載

神景品企画 2

『乃木坂46』
 ×
 『サンリオ』



乃木坂46×シナモロールぬいぐるみマスコットが「神の手」だけでゲット!
 コラボメンバー16名ごとに限定30個の本人直筆サイン付き!
 出所：決算説明会資料より掲載

神景品企画 3



原作 キャラクターデザイン
秋元 康 × 天野 喜孝
コラボが実現!

ファイナルファンタジーの
 キャラクターデザインを手掛けた
 天野喜孝氏が
 「神の手」イメージ
 ビジュアルを描き下ろし!

出所：決算説明会資料より掲載

ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ